



ピアノニストからみた室内楽入門

第4回 楽器の特徴 ②弦楽器の音域について

深井尚子 ● ピアニスト

ご存知の通り、ピアノは全88鍵5オクターヴ強の音域を持つ楽器です。

ピアノがあればオーケストラのすべての楽器の音域を網羅できます。私たちピアニストは、常に幅広い音域を自由自在に演奏することに慣れて

いますが、ヴァイオリンはどうでしょう。ピアノでいえば、真ん中のドより少し下(G)から、上の音は

ピアノの最高音の少し下(E)までです。ヴァイオリンは、弦によって特徴があり、E弦の音域あたりが最もよく楽器が鳴ると言われています、

ピアノのメロディー部分より少し上の音域がヴァイオリンニストには心地良いと言います。逆にヴァイオリンにとって低い音、ピアノで言えば中音域が鳴りにくいのです。ここで気が付くことは、ピアノにとって一番よく使われ、メロディーが現われやすい中音域が、ヴァイオリンにとっ

て音が鳴りにくいということとです。

では、チェロの音域を見てみましょう。

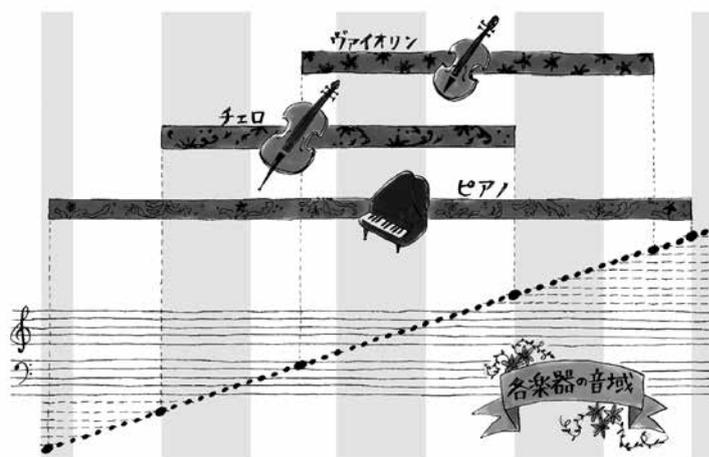
チェロは、ピアノの真ん中のドより2オクターヴ下の音(C)から上

は、真ん中のドから1オクターヴ上のド

の5度上(G)までです。チェロは、思いの

ほか高い音が出せるのです。しかし、ヴァイオリンと同じように、

チェロが最も豊かに鳴るのは、チェロの下の方の音域と中音域、ピアノで



イラスト◎吉田しんこ

例えば、真ん中のドより少し下の音域になります。チェロは、ヴァイオリンに比べて弦が太いので、低音がよく響く楽器です。このようにヴァイオリンとチェロの音域と確認し、最も豊かに楽器が鳴る音域はどこなのかを知るこ

とでアンサンブルをする時に、お互いに聴き所が変わってきます。

また、ヴァイオリンやチェロなどの弦楽器は、シャープ(#)系の調

が弾きやすいため、弦楽器の特徴をよく知る作曲家は、シャープ系の曲を比較的多く書く傾向があります。

先月ピアノの特徴をいくつか挙げましたが、弦楽器の特徴を知ると、メロディーがヴァイオリンの中音域にあつた場合、ピアノはよほど音量に気をつけなければなりません。

ヴァイオリンは鳴りにくい中音域でメロディーを弾いていて、楽譜にfの指示がある場合、ピアノは、mfくらいで弾かなければ、美しいアンサンブルにならないことがわかれると思います。また、低音域でチェロがメロディーを奏でている時もやはりピアノは注意が必要で、チェロのメロディーを支えるような音量と音質で弾かなければなりません。つまり、アンサンブルは、楽譜全体を見渡しているピアニストの耳によって、良くも悪くもなるのです。



Shoko Fukai
ウィーン市立音楽院修了。ウィーン古典派をレパートリーの中心に演奏活動中。特にベートーヴェンを深く研究しており、学術論文多数。ベートーヴェンピアノ・ソナタのCD第1集、第2集は好評発売中。色とりどりの小品集ハイドン、ベートーヴェン(ヤマハミュージックメディア)の校訂解説の楽譜も好評。現在、北海道教育大学音楽コース准教授。5月27日19時より、松尾ホールにて『メビウス・東京』第2回演奏会。 東京文化会館 チケットサービス 03-5685-0650